

コロナ禍は改革のチャンス

キャスター軸に事業領域広げる

コロナ禍の影響は。

経済活動が減速し、日々が続いてきた。しかしキャスターもその影響を受けざるを得ない状況が続いている。不況でも収益の出る経営をしているが、先行きの見えない状況に不安は拭いきれない。

今年取り組むことは。

とはいえ、この向かい風が吹く環境をむしろチャンスと捉えている。取り組むのは社内の改善。これまで事業を広

げ、業績を伸ばし、繁忙の体制を構築したい。将来目指す姿は。

キャスターの国内市場は約300億円といわれ、このうち25%近いシェアを持つ。市場は成熟しつつあり、従来の方

まず生産の効率化を図る。老朽化した機械を入れ替え、ロボットなどを導入し自動化を進める。少子高齢化を背景に人手不足はますます大きな課題になる。それに対応す

るため自動化や効率化で24時間365日稼働する

具体的には。

キャスター事業はここ

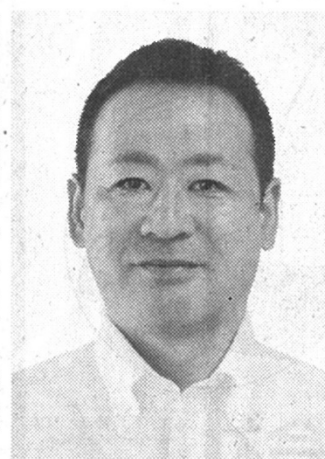
数年、段差をスムーズに乗り越えるキャスターや、重い荷物を載せても軽々と運べるキャスターなど、今までにない商品を開発してきた。今後

こうした独自の商品を生み出し、潜在する需要を開拓していく。また海外展開も広げていきたい。

その一方、新事業としては昨年、部品の受託加工サービスを始め、シーリングファンも発売し

た。来月にはセンサ内蔵のキャスターやゲートウェイなどで物流の動きや温度、照度を監視できるIoTシステムを売り出す。

これらはキャスターの技術を生かし新たなものに進化した。こうした新事業とキャスターの両輪で、グループ総売上高を10年後に今の10倍の1000億円に伸ばしたい。



ユ-エイ
雄島 耕太社長